

中期目標の達成状況に関する評価結果

鹿屋体育大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	3
《本文》	7
《判定結果一覧表》	13

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

国立大学法人鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、スポーツ科学・体育学領域における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与する。

以上の目的を実現するため、教育、研究及び社会貢献に関する基本目標を以下のとおり掲げ、社会の信頼に応えられるよう自己変革しつつ、個性輝く大学を目指す。

（１）教育に関する目標

スポーツ・健康に関する理論と実践による質の高い教育と、充実した教養教育・専門教育を実施し、豊かな教養、確かな学力、優れた技能、果敢な行動力を備え、個性に溢れ、人間的魅力に満ちた高度な専門職業人を育成する。

体育学部においては、実践的・創造的な指導力と優れた応用能力を持つ活力ある指導者になり得る人材、高い人間力と社会の各分野で活躍できる能力を持つ職業人になり得る人材を育成し、体育学研究科においては、高度な専門的知識と豊かな学識を有し、国際的に活躍できる高度な専門指導者になり得る人材を育成する。

（２）研究に関する目標

スポーツ・身体運動による健康づくり及び競技力の向上に関する分野での実践的・先進的・創造的な研究を推進するとともに、人文・社会・自然科学の諸領域にまたがる体育学の特性を活かして、総合的・学際的・実践的領域での研究を推進する。

（３）社会貢献に関する目標

教育研究の成果を広く発信するとともに、開かれた大学として、生涯学習の機会の提供、教育研究資源の開放、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ文化の向上に貢献する。

- 1 スポーツパフォーマンスを科学的に分析する実践的研究の推進を図るため、平成 27 年度にスポーツパフォーマンス研究棟の運用を開始した。
- 2 主にアジア諸国の大学院生レベルの学生等を対象にオリンピック教育プログラムの開発とグローバル人材の育成を目的とする国際スポーツ・アカデミー形成支援事業を平成 26 年度から開始した。
- 3 国民の体力・運動能力の向上及び健康の維持増進を目的に「貯筋運動」の普及に取り組んでいる。
- 4 体育・スポーツ領域の学術をリードしていくため、筑波大学との連携で大学院体育学研究科に修士課程及び 3 年制博士課程の共同専攻を平成 28 年度設置に向けて取り組んだ。
- 5 学生の競技力向上は、本学の教育研究の成果として、また、我が国のスポーツ振興に寄与する観点からも重点的に取り組んでいる。平成 26 年度には、国際大会で活躍できるようなトップアスリートを育成・輩出するため、海外遠征等に係る費用の支援や科学的・栄養的サポート等の支援体制を整備した。
- 6 平成 22 年度に締結した鹿屋市との包括的連携協定に基づき、産学官連携による「スポーツ合宿まちづくり推進事業」を展開し、プロスポーツ選手等を受入れ、動作解析等の科学的サポートを行っている。

[個性の伸長に向けた取組]

- 1 スポーツパフォーマンス研究棟において、フォースプレート、モーションキャプチャー、高速度カメラ等、様々な測定機器を配置し、実際の競技現場におけるパフォーマンスを分析・評価する研究環境を平成 27 年度に整備した。さらに、ウェブジャーナル「スポーツパフォーマンス研究」において論文を掲載し、競技力向上のためのトレーニング法等、スポーツにおける実践活動に寄与する知見を広く公表している。(計画 2-1-2-1)
- 2 主にアジア諸国の大学院レベルの学生やトップコーチ等を対象に、アジアでのオリンピック教育プログラムの開発とグローバル人材育成を目的とした「鹿屋体育大学国際スポーツ・アカデミー」を平成 26 年度から開始し、国内外に向けてセミナー及びシンポジウムを開催している。(計画 1-1-4-1、計画 3-2-1-1)
- 3 地元自治体と連携し、各ライフステージでの適切なトレーニング方法と効果について実験・測定による科学的検証を行う「NIFS みんなの貯筋プロジェクト」を実施するとともに、同プロジェクトの研究成果を、大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ「NIFS スポーツクラブ」において「貯筋サークル」のスポーツプログラムとして活用しているほか、シンポジウム等を開催し、情報発信を行っている。(計画 2-1-1-3、計画 3-2-1-2)

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

東日本大震災の被災学生に対して、授業料免除、学生宿舎への優先的入居及び寄宿料免除の支援を行った。

この他、教職員、学生、保護者及び大学関係者の協力を得て、義援金及び緊急支援物資の提供を行った。(計画 1-3-1-1)

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鹿屋体育大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	不十分				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	4	
② 教育の実施体制等に関する目標	不十分			1	1
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
（Ⅲ） その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 体育・スポーツ学分野において国内外の大学を先導するために、筑波大学と連携協力を図り、共同専攻を設置するための準備を進めている。平成 25 年度にワーキンググループや設置準備委員会を開催し、平成 26 年度に共同教育プログラムを実施している。平成 27 年度に共同教育課程としてスポーツ国際開発学、高度大学体育スポーツ指導者養成の各共同学位プログラムを開設するなど、段階的な取組を着実に実施しており、平成 28 年度からの大学院体育学研究科修士課程及び 3 年制博士課程の共同専攻開設につなげている。（中期計画 1-1-5-5）

個性の伸長に向けた取組

- 平成 25 年度に各競技におけるトップレベルのコーチ、アスリートとして活躍している者及び体育系の教員等が、実践的指導能力と高度な科学研究能力を修得することを目的とした東京サテライトキャンパス社会人コースを開設し、平成 27 年度までに修士課程は 1 名、博士後期課程は 4 名を受け入れている。また、トップレベルのコーチ、アスリートの大学院課程への進学や、セカンドキャリアとして大学教員候補者等への移行の支援が行える教育プログラムである、スポーツキャリア大学院プログラムを実施している。さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、主にアジア諸国の大学院レベルの学生を対象に、グローバル人材の育成を目的とする国際スポーツ・アカデミー形成支援事業を展開するため、オリンピックマネジメントセミナーや国際スポーツアカデミーシンポジウムを開催するなど、多様な人材を確保するための取組を推進している。（中期計画 1-1-4-1）
- 第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）において、競技力向上のためのトレーニング法等のスポーツパフォーマンスに関連する研究の成果を、体育・スポーツ関連学会や国内外の専門学術誌等を通して社会に広く公表している。特に、査読付ウェブジャーナル『スポーツパフォーマンス研究』に毎年平均約 15.7 編、計 94 編の論文を掲載している。（中期計画 2-1-2-1）

改善を要する点

- 授業評価に関して、授業担当者への評価結果のフィードバックや自己点検レポートの提出を求めている、ファカルティ・ディベロップメント（FD）講演会や新任教員研修、FD 研修会等が行われているものの、教員の参加率から積極的に取り組んでいるとはいえ、1 科目ごとの授業アンケートの実施が2年に1回にとどまるなど、FD 事業の推進が十分にはなされていない。（中期計画 1-2-2-1）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>

- 東日本大震災の被災学生に対して、授業料免除、学生宿舎への優先的入居及び寄宿料免除の支援を行った。
この他、教職員、学生、保護者及び大学関係者の協力を得て、義援金及び緊急支援物資の提供を行った。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が不十分である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のうち、2項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した4項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○トップレベルのコーチ、アスリート等への教育プログラムの推進

中期目標(小項目)「②大学院課程 アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜を推進する。」について、平成25年度に各競技におけるトップレベルのコーチ、アスリートとして活躍している者及び体育系の教員等が、実践的指導能力と高度な科学的研究能力を修得することを目的とした東京サテライトキャンパス社会人コースを開設し、平成27年度までに修士課程は1名、博士後期課程は4名を受け入れている。また、トップレベルのコーチ、アスリートの大学院課程への進学や、セカンドキャリアとして大学教員候補者等への移行の支援が行える教育プログラムである、スポーツキャリア大学院プログラムを実施している。さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、主にアジア諸国の大学院レベルの学生を対象に、グローバル人材の育成を目的とする国際スポーツ・ア

カデミー形成支援事業を展開するため、オリンピックマネジメントセミナーや国際スポーツアカデミーシンポジウムを開催するなど、多様な人材を確保するための取組を推進している。（中期計画 1-1-4-1）

○体育学研究科における筑波大学との共同プログラムの実施

体育学研究科において、教育目的に即した人材の養成のため、平成 25 年度から筑波大学との共同専攻設置に向けた検討を重ね、平成 26 年度から共同教育プログラムを、平成 27 年度から共同学位プログラムを実施し、平成 28 年度に開設予定の共同専攻における学生受入体制を整備している。共同学位プログラムへは平成 27 年度に修士課程に 2 名、3 年制博士課程に 1 名を受け入れている。

（現況分析結果）

○体育学研究科における連携大学院の整備

体育学研究科において、体育学の学際性を深めるため、博士後期課程の連携大学院では、平成 19 年度から継続している国立スポーツ科学センターとの連携大学院に加え、熊本大学及び鹿児島大学との連携大学院を整備し、平成 27 年度に当該大学に 2 名、熊本大学に 1 名の学生を受け入れている。（現況分析結果）

（特色ある点）

○筑波大学との連携による体育・スポーツ学分野の先導

中期目標（小項目）「②大学院課程 学生への教育研究支援を充実し、高度な専門指導者等を養成する。」について、体育・スポーツ学分野において国内外の大学を先導するために、筑波大学と連携協力を図り、共同専攻を設置するための準備を進めている。平成 25 年度にワーキンググループや設置準備委員会を開催し、平成 26 年度に共同教育プログラムを実施している。平成 27 年度に共同教育課程としてスポーツ国際開発学、高度大学体育スポーツ指導者養成の各共同学位プログラムを開設するなど、段階的な取組を着実に実施しており、平成 28 年度からの大学院体育学研究科修士課程及び 3 年制博士課程の共同専攻開設につなげている。（中期計画 1-1-5-5）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が不十分である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(改善を要する点)

○FD事業の推進

中期目標(小項目)「教員の教育能力及び指導能力等の向上を図る。」のうち、中期計画「授業評価調査や授業に関する研究会等のFD(ファカルティ・ディベロップメント)事業を推進する。」について、授業評価に関して、授業担当者への評価結果のフィードバックや自己点検レポートの提出を求めている、FD講演会や新任教員研修、FD研修会等が行われているものの、教員の参加率から積極的に取り組んでいるとはいえず、1科目ごとの授業アンケートの実施が2年に1回にとどまるなど、FD事業の推進が十分にはなされていない。(中期計画1-2-2-1)

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○スポーツパフォーマンス関連の研究成果の発信

中期目標(小項目)「生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。」について、第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)において、競技力向上のためのトレーニング法等のスポーツパフォーマンスに関連する研究の成果を、体育・スポーツ関連学会や国内外の専門学術誌等を通して社会に広く公表している。特に、査読付ウェブジャーナル『スポーツパフォーマンス研究』に毎年平均約15.7編、計94編の論文を掲載している。

(中期計画2-1-2-1)

○健康科学分野における研究の推進

中期目標（小項目）「生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。」について、発育期児童・生徒を対象にした運動処方の開発に関する研究や、健康の維持増進及び生活習慣病予防等に関する研究である **Promotion of Active Life Style (PALS)** プロジェクト、身体機能の評価方法や筋肉のトレーニング方法等に関する基礎研究等、健康科学分野において先導的役割を果たすための研究を推進している。その研究成果として、国内外の専門学術誌へ計 276 編の論文を掲載している。（中期計画 2-1-2-2）

（特色ある点）

○貯筋運動のプログラム開発の推進

中期目標（小項目）「体育・スポーツ及び健康に関する独創的、先端的、総合的な学術研究を進め、学際領域における実践的な研究を推進する。」について、第2期中期目標期間において、中高年者が日常的に実施可能な自体重を負荷とするエクササイズから成り立っている貯筋運動のプログラム開発を進めている。その結果、中高年者の身体機能、認知機能及び健康関連 QOL を改善する上で貯筋運動が有効であることを明らかにしている。また、中高年だけではなく児童・生徒への適用を視野に、自重負荷エクササイズから構成される発育期に適切な運動処方のプログラムを策定している。（中期計画 2-1-1-3）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体や企業等とのスポーツ・健康分野の共同研究等の推進

中期目標(小項目)「産学官連携等の事業を積極的に展開し、地域産業の活性化に貢献する。」について、平成22年度に鹿屋市と包括連携協定を締結し、スポーツ交流によるまちづくりを目指す、スポーツ合宿まちづくり推進事業を実施することで、合宿の受入やスポーツ選手の科学的サポートに継続的に取り組んでいる。また、平成25年度に鹿屋市内の企業と共同研究で開発した、スポーツ実施者用サプリメントであるスポーツハイブリットサプリの商品化契約を締結している。さらに、平成26年度に市民を対象に健康食堂を活用した保健指導の影響調査を鹿屋市と受託研究で行うなど、スポーツ・健康分野で自治体や企業等との共同研究等を推進している。(中期計画3-1-2-1)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		不十分	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
①学士課程 アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜を推進する。		おおむね良好	
1-1-1-1	①学士課程 受験生及び入学者の状況を調査・分析し、各種入学者選抜方法及び入試広報の点検・改善を進める。	おおむね良好	
1-1-1-2	①学士課程 高等学校等と連携し、合格者に対する入学前教育を行う。	おおむね良好	
①学士課程 豊かな教養を備え、課題探求能力を有し、実践的指導力を身に付けた人材を育成するための教育を行う。		おおむね良好	
1-1-2-1	①学士課程 教養教育において、コミュニケーションを重視した教育を展開する観点から、一般教育及びキャリア教育を点検し、改善する。	おおむね良好	
1-1-2-2	①学士課程 専門教育において、アスリートとして、また適切な指導が行える基礎的知識・能力を持った指導者として人材育成する観点から、教育プログラムに基づきカリキュラムを点検し、改善する。	おおむね良好	
1-1-2-3	①学士課程 学生の社会的実践力を伸ばす観点から、学外実習科目を点検し、改善する。	おおむね良好	
1-1-2-4	①学士課程 学生の視点に立った学習指導・履修指導を推進する。	おおむね良好	
1-1-2-5	①学士課程 シラバス及び履修モデルの内容を点検し、改善する。	おおむね良好	
①学士課程 統一的で厳格な成績評価を実施し、教育目標の達成度・習熟度を正確に把握する。		おおむね良好	
1-1-3-1	①学士課程 総合的な成績評価を実施するとともに、厳格な成績評価のための評価方法を点検し、改善する。	おおむね良好	
1-1-3-2	①学士課程 GPA方式による学生の成績評価を各種選考基準等に活用する。	おおむね良好	
②大学院課程 アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜を推進する。		良好	
1-1-4-1	②大学院課程 社会人や外国人留学生等、多様な人材の受入れを推進する。	良好	優れた点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
○	②大学院課程 学生への教育研究支援を充実し、高度な専門指導者等を養成する。		おおむね良好	
	1-1-5-1	②大学院課程 専門性の向上のため、学外の有識者による特別講義を実施する。	おおむね良好	
	1-1-5-2	②大学院課程 総合的な研究能力育成のため、大学院生の学内プロジェクト等への参画を推進する。	おおむね良好	
	1-1-5-3	②大学院課程 国際的に活躍できる実践的能力育成のため、大学院生の国際学会等での発表を支援する。	おおむね良好	
	1-1-5-4	②大学院課程 サテライトキャンパスにおける大学院教育を充実する。	おおむね良好	
	1-1-5-5	②大学院課程 筑波大学と体育・スポーツ学分野における共同専攻の設置を目指し、共同学位プログラム等を実施する。	良好	特色ある点
② 教育の実施体制等に関する目標			不十分	
教育目標に沿った適切な教育実施体制及び教育環境等の整備・充実を図る。			おおむね良好	
	1-2-1-1	社会の要請や社会情勢の変化を踏まえ、体育大学としての特性に配慮しつつ、必要に応じ教員組織や入学定員等を見直す。	おおむね良好	
	1-2-1-2	情報通信技術（IT）を活用した効果的な授業や自主学習が行える環境の整備・充実を進める。	おおむね良好	
教員の教育能力及び指導能力等の向上を図る。			不十分	
	1-2-2-1	授業評価調査や授業に関する研究会等のFD（ファカルティ・ディベロップメント）事業を推進する。	不十分	改善を要する点
	1-2-2-2	自己評価及び学外評価による教育評価システムを構築する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
学生生活や課外活動の支援体制を充実する。			おおむね良好	
	1-3-1-1	学生が抱える諸問題、特に経済的問題や心理・健康に関する相談・支援の機能をより効果的に高めるよう、学生生活への支援体制を点検し、充実する。	おおむね良好	
	1-3-1-2	重点強化競技種目・選手の選考、TASSプロジェクトの推進及びオリンピック出場に向けての特別強化への支援等、課外活動への支援を充実する。	良好	
学生の就職活動への支援を推進する。			おおむね良好	
	1-3-2-1	職業観の涵養や就職活動の意識高揚を図るための取組を点検し、充実する。	おおむね良好	
	1-3-2-2	雇用情勢を見極めつつ、大学で培われた能力を十分に活かすことのできる進路先開拓に取り組む。	おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
（Ⅱ） 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
体育・スポーツ及び健康に関する独創的、先端的、総合的な学術研究を進め、学際領域における実践的な研究を推進する。			おおむね良好	
2-1-1-1	競技力の向上に効果のある科学的トレーニング法の構築と高度な指導システム開発に関する研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-1-2	総合型地域スポーツクラブ等の育成プログラムの開発や、健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-1-3	実践的活動による検証も踏まえ、中高年者のスポーツによる健康づくりの原理を明らかにし、人々のライフステージや体力、生活環境に応じた運動処方を開発する。		おおむね良好	特色ある点
生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。			良好	
2-1-2-1	競技力の向上のための科学的トレーニング法に関する研究成果を広く公表する。		良好	優れた点
2-1-2-2	健康の維持増進及び生活習慣病予防等に関する研究成果を広く公表する。		良好	優れた点
2-1-2-3	市民を対象としたプログラムの実施の実施等を通じ、人々のライフステージや体力、生活環境に応じた運動処方の普及に取り組む。		おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
研究活動の質の向上と活性化のための体制を整備・充実する。			おおむね良好	
2-2-1-1	全学的見地から適正な研究者の人員配置を行う。		おおむね良好	
2-2-1-2	学内重点プロジェクトによる研究体制を充実する。		おおむね良好	
教員の研究活動に対する適正な評価とその有効活用を図る。			おおむね良好	
2-2-2-1	教員の研究成果・業績等に関する客観的評価システムを充実する。		おおむね良好	
2-2-2-2	教員の評価結果を重点的研究資金の配分や研究環境の整備等に有効活用する。		おおむね良好	
（Ⅲ） その他の目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
地域への多様な学習機会の提供等により、生涯学習の普及や地域の活性化に貢献する。			おおむね良好	
3-1-1-1	公開講座、リフレッシュ教育・専門教育研修等、大学の教育研究資源を活用した学習機会を提供する。		おおむね良好	
3-1-1-2	大学の施設等を活用した大学開放事業を推進する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
	3-1-1-3	武道や海洋スポーツ等の振興・普及に向けた事業を展開する。		おおむね良好	
	3-1-1-4	地域における高等教育機関等との連携を推進する。		おおむね良好	
	3-1-1-5	大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ（NIFSスポーツクラブ）への支援を行う。		おおむね良好	
	産学官連携等の事業を積極的に展開し、地域産業の活性化に貢献する。			おおむね良好	
	3-1-2-1	地方自治体や企業等との共同研究・研究交流等を推進する。		おおむね良好	特色ある点
	3-1-2-2	知的財産の創出、取得及び活用を推進する。		おおむね良好	
	② 国際化に関する目標				おおむね良好
国際交流・協力を推進し、大学の国際化を図る。				おおむね良好	
	3-2-1-1	国際交流協定締結校との交流を拡充するとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを推進する。		おおむね良好	
	3-2-1-2	大学の国際化に向けた学内共同研究プロジェクトの推進やウェブジャーナルの充実・支援に取り組む。		おおむね良好	
	3-2-1-3	国際シンポジウム等の開催に取り組む。		おおむね良好	
	3-2-1-4	国際交流に係る支援体制を点検し、充実する。		おおむね良好	

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	第2期中期目標期間において、体育・スポーツ領域の学術をリードしていくための教育研究の強化を目指した計画を進めている。体育・スポーツ学分野において国内外の大学を先導するために、筑波大学と連携協力を図り、共同専攻を設置するための準備を進めている。平成25年度にワーキンググループや設置準備委員会を開催し、平成26年度に共同教育プログラムを実施している。平成27年度に共同教育課程としてスポーツ国際開発学、高度大学体育スポーツ指導者養成の各共同学位プログラムを開設するなど、段階的な取組を着実に実施しており、平成28年度からの大学院体育学研究科修士課程及び3年制博士課程の共同専攻開設につなげている。
-----	--